



令和7年度 尚絅大学・尚絅大学短期大学部入試日程

総合型選抜（第1回・第2回）選考日程 ※第1回はエントリー型					
入試区分	実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
総合型選抜(第1回)(エントリー型) 出願許可選考(一次選考)	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部 短期大学部 総合生活学科 食物栄養学科 幼児教育学科	エントリー期間 令和6年9月2日(月)～9月10日(火)	出願許可選考日 9月14日(土)	出願許可 9月25日(水)	
総合型選抜(第1回)(エントリー型) 書類選考(二次選考)		令和6年9月25日(水)～10月11日(金)	なし	11月1日(金)	
社会人選抜(第1回)		令和6年9月2日(月)～9月10日(火)	9月14日(土)	9月25日(水)	11月15日(金)
総合型選抜(第2回) 社会人選抜(第2回)		令和6年12月2日(月)～12月6日(金)	12月14日(土)	12月20日(金)	令和7年1月10日(金)

※こども教育学部・短期大学部幼児教育学科は武蔵ヶ丘キャンパスで実施します

学校推薦型選抜（指定校・一般・併設校）・外国人留学生選抜・外国にルーツを持つ生徒対象選抜選考日程					
入試区分	実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
学校推薦型選抜 (併設校・指定校・一般) 外国人留学生選抜・ 外国にルーツを持つ生徒対象選抜(注)	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部 短期大学部 全学科	令和6年11月1日(金)～11月8日(金)	11月16日(土) 11月17日(日)	12月2日(月)	12月13日(金)
学校推薦型選抜 地方会場 (指定校・一般) 【福岡市・鹿児島市・宮崎市】	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部 短期大学部 全学科	令和6年11月1日(金)～11月6日(水)	11月9日(土)		

(注) こども教育学部は実施いたしません

編入学選抜選考日程				
実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
生活科学部〈第1回〉 こども教育学部〈第1回〉	令和6年12月2日(月)～12月6日(金)	12月14日(土)	12月20日(金)	令和7年1月10日(金)

※こども教育学部は武蔵ヶ丘キャンパスで実施します

○本学では、Web出願と募集要項(冊子)による2通りの出願方法が利用できます。
詳細については尚絅大学・尚絅大学短期大学部ホームページをご覧ください。

SNS始めました 最新情報をチェック!

尚絅大学・尚絅大学短期大学部

尚絅中学・高等学校



後 塞 予定を立てずとも、毎日友だちに会えた「学校」という環境が貴重だったと年を重ねることに感じる。学生時代は当たり前すぎて実感しなかった友だちに毎日会えるという貴重な時間。尚絅で出会う縁を大切に、貴重な楽しい時間を過ごしてほしい。(S・M)

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚絅学園 編集スタッフ/久野恭義、新納ゆりか、倉寄真優、松下尚史、増本紗希
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp



尚絅大学 尚絅大学短期大学部
尚絅高等学校 尚絅中学校 (中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚絅大学附属こども園

尚絅大学・尚絅大学短期大学部
ホームページ
尚絅中学校・尚絅高等学校
ホームページ



礎

ISHIZUE

尚絅学園広報誌

2024年 春夏号

Vol. 41



尚絅学園キャラクター
「花くま」



幼児教育学科(武蔵ヶ丘キャンパス)



生活科学部(九品寺キャンパス)

Vol.41 CONTENTS

尚絅大学 尚絅大学短期大学部…………… P1－P2
尚絅中学校 尚絅高等学校…………… P3－P4
尚絅大学附属こども園／寄附者芳名録／古本募金／新任教職員紹介…………… P5
令和5年度決算の概要と事業報告／令和6年度事業計画…………… P6－P9
INFORMATION…………… P10
入試日程…………… 裏表紙





尚絅大学 尚絅大学短期大学部

尚絅食育推進シンポジウム

令和6年1月21日(日)、大学1号館10階ホールにおいて「子どもの未来を拓く保育・食育を目標して～発達特性に寄り添った偏食の支援～」をテーマに、第5回尚絅食育推進シンポジウムを、対面とオンラインのハイブリッド方式により開催しました。今回のテーマは多くの保育所等や学校における課題であることから参加者が最も多く、保育施設の園長、保育士、栄養士、調理師、栄養教諭、学生等、約150名の方々に参加いただきました。



入学式

令和6年4月3日(水)、令和6年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部入学式を尚絅アリーナにて行いました。

真新しいスーツに身を包んだ大学生147名、短期大学部生176名の合計323名の新入生と保護者の方々が参加されました。当日はあいにくの雨ではありましたが、桜の花も入学式当日を待っていていたかのように咲き誇っており、ご家族やご友人と記念写真を撮りあうなど、微笑ましい光景が印象的でした。

式典後には各学部・学科に分かれて入科式も行われ、新入生は新たなスタートを切りました。



OMO5 熊本 by 星野リゾートと尚絅大学・尚絅大学短期大学部は「くまモン学」を通じた熊本の地域活性化・まちづくりの推進に向けて連携協力していきます。

令和6年1月24日(水)、OMO5 熊本 by 星野リゾートと尚絅大学・尚絅大学短期大学部は「くまモン学」を通じて、熊本の観光振興と地域活性化の発展を目指し、協定を締結しました。協定式はくまモンが駆けつけ、和やかなムードで行われました。



くまモン学を学ぶ学生たちはOMO5 熊本とタッグを組んで新たな展開を考えることにワクワクドキドキが止まらない様子です。

この協定を機にOMO5 熊本と連携を深め、グローバルな視点でくまモン学やまちづくりのさらなる発展を目指し、取り組んでいきたいと考えています。



「くまモン学研究会」を開催しました

令和6年2月24日(土)、「くまモン学研究会」を開催しました。全国から研究者・学生等多くの方々に参加いただきました。

くまモン学研究会は「くまモンのブランディングについて一緒に語る」をテーマとし、学生は「くまモンの新たな展開」についてプレゼンを行いました。

ブレイス・ブランディング研究の第一人者である新潟大学の長尾准教授による基調講演の後、流通科学大学の西村教授、熊本県立大学の望月教授、熊本県くまモングループの鳥井課長、本学の畠山教授、柳田教授からそれぞれ違った観点で報告があり、くまモン学の広がり象徴する圧巻の研究セッションとなりました。くまモン学はさらに拡大・進化をしていきます。



©2010熊本県くまモン

尚絅子育て研究センター

乳幼児保育研究会&保育Caféを開催しています！

令和6年4月17日(水)、第1回乳幼児保育研究会を開催しました。保育アドバイザーの平田先生から、今年度の保育をどう進めるかや、実践レポートの書き方について話がありました。子どもを見る時には家庭の暮らしの状況を捉え、園での様子はその暮らしとは切り離せないということを常に意識し、一番遠くの子どもにも届く保育をしていかなければいけないことを確認しました。泗水幼稚園の坂井先生からは、「友だちって、心を動かす素敵で大切なもの」と題して報告がありました。口調の強い子、荒い言葉を使う子、乱暴な言葉に注目しがちですが、なぜ強い言葉が出ているのかに思いを巡らせ、その子を受け入れていくことが大切です。そして担任がその子をどう捉えるのかは、クラスの子ども達に知らず知らずのうちに伝わっていることも肝に銘じておく必要があります。その子のいいところ、好きなことを探し、保育の中でその子が輝いて、友達から「すごいね！」などの言葉が出るような保育を紡いでいきたいものです。

こうした子育て研究センターの事業については、ホームページや子育て研究センター紀要『児やらい』において随時報告していきます。



グローバル化推進センター

交換留学生歓迎会を開催しました

4月から新たに交換留学生4名を迎え、現代文化学部で学ぶ留学生が6名(中国2名、韓国2名、台湾2名)になりました。留学生との交流を深めるため令和6年4月24日(水)、大学7号館のグローバルラウンジで歓迎会を開催しました。自己紹介の後、カードゲームなどで和気あいあいと交流しました。交換留学生は、日本語の実践能力向上と、文化体験を通じた一層の日本理解を目指して、さっそく本学の学生と積極的に交流しています。当センターでは、本学の学生にとっても貴重な体験となる交流イベントを、今後も幅広く開催してまいります。



尚絅食育研究センター

尚絅食育の日～お魚の日～を開催しました

6月19日は「食育の日」です。本学では、学食にて特別メニュー「鯛めし(天草さくら鯛)・がね揚げ・あおさ汁」を提供しました。この取組は、天草地区漁業士会のご支援を受け、今年で6年目を迎えました。毎回好評のため今回は80食に増やしましたが、早々にチケットが完売する人気ぶりでした。同時に天草地区漁業士会の取組と熊本の養殖魚の資料展示を行いました。今後もさまざまな活動を通して食育の推進を図るとともに漁業や熊本県水産物の普及にも取り組んでいきます。



就職・進路支援センター「キャリアアップ講演会」を開催しました！

令和6年3月22日(金)、日本航空株式会社 熊本支店長 西原口香織氏(現執行役員)をお迎えして「私が私をプロデュース ～生き生きと働くために～」をテーマとしたキャリアアップ講演会を開催しました。

西原口氏から、ご自身の経験や実社会で学んだこと、採用する側の視点に立ったアドバイス等の実践的な講話をいただきました。また、質疑応答では就職に関することから客室乗務員としての気付きに関することまでを分かりやすく対応いただきました。

学生からは「社会人として目標にしたい」「改めて自分の就職活動について気付きがあった」等多くの感想が寄せられ、それぞれに新しい発見があった講演となりました。



総合生活学科 人の繋がりを誘発するリノベーション＝コ・リノベーション研究の調査を行いました

総合生活学科の竹下研究室では、合志市御代志にて空き家をリノベーションしカフェのオープンを目指している事業者に対して、リノベーションを契機とした人の繋がりの実態調査とその有効性についてヒアリング調査を行いました。また、リノベーションワークショップに参加し、事業者のサポートも実施しました。本事例を起点としてリノベーションと人の繋がりが連鎖し街に広がっていくことで、持続的に地域を活性化することができるかを長期的に検証していきます。



生活科学部「第2回小学生親子料理教室」を開催しました！

令和6年2月17日(土)、第2回小学生親子料理教室を開催しました。九品寺キャンパス近隣の4つの小学校から13組の親子が参加されました。テーマは「ひなまつり料理」。親子でデコレーション寿司、揚げないから揚げ、いちご大福などにチャレンジし、学生スタッフとともに、料理を通して楽しい時間を過ごすことができました。

令和6年度も親子料理教室を開催します。ご参加をお待ちしています。





尚絅中学校 尚絅高等学校

高校卒業式

令和6年3月1日(金)、尚絅アリーナにおいて、第76回卒業証書授与式を行いました。

ご来賓の方々や多くの保護者のみなさまに見守られ、厳かな雰囲気の中、心温まる式が執行了われました。式後のホームルームでは、担任の先生から卒業証書を受け取り、改めて高校卒業を実感するとともに、仲間と写真を撮り、メッセージを交換して高校生活最後の時間を過ごし、166名の卒業生が名残惜しくも学舎を旅立っていました。



中学卒業式

令和6年3月14日(木)、中学3年生の卒業証書授与式を行いました。校長先生からの卒業証書授与、祝辞の後、担任の先生からのメッセージと続きました。卒業生はこれまでの生活を振り返り、涙ながらに周りの人たちへの感謝の気持ちや高校での決意を述べ、一人ひとりの成長した姿に拍手やエールが贈られ、とても良い式になりました。

中高入学式

令和6年4月9日(火)、尚絅アリーナにおいて、尚絅中学校・尚絅高等学校の入学式を行いました。

穏やかな空の下、新生活への希望を胸に新しい制服に身を包んだ新入生が登校し、晴れやかな表情を見せてくれました。入学式では、校長先生の入学許可宣言に続く式辞、理事長お祝いの言葉の後に、中学生、高校生の新入生代表がそれぞれ誓いの言葉を述べました。

開式前のギター・マンドリン部の演奏や合唱部の校歌披露により在校生もお祝いに花を添えてくれました。式後のホームルームで担任の先生の話真剣に耳を傾ける新入生の姿は、とても初々しいものでした。



私学合同オープンスクール

令和6年3月27日(水)、熊本駅前アミュ広場で行われた「私学合同オープンスクール」に参加しました。「私学合同オープンスクール」は、多くの方々に私立学校を知っていただくという目的のもと、ルーテル学院高校の探究活動の一環として開催されました。本校の生徒会執行部7名が一日運営に携わり、スケジュールに沿って合唱部、バントワリング部、和装礼法部、吹奏楽部、ギター・マンドリン部がステージ発表を行いました。

春休み期間中ということもあり、たくさんの方々に拍手や声援等をいただきました。朝から天気も良く、各部の生徒たちも伸び伸びと日頃の練習の成果を披露することができ、良い経験となりました。



修学旅行2023 東京(高2)3/4~3/7

高校2年生が3泊4日で東京の修学旅行に参加しました。初日は阿蘇くまもと空港から羽田空港へ移動後にお台場で研修を行いました。2日目は各班が計画した班別自主研修で、名所巡りや美術鑑賞、進路考察、グルメを楽しむ活動をしました。3日目のディズニーランドでの班別研修は、天候にも恵まれ、生徒たちはグループごとに満喫していました。最終日は上野公園での研修を経て、帰路に着きました。生徒たちは修学旅行を通して得た学びを、今後の学校生活や進路に活かしてくれるものと思われます。



修学旅行2023 シンガポール(高2・中3)3/3~3/7

中学3年生15名と高校2年生14名が3泊5日のシンガポール修学旅行に参加しました。マーライオンパークをはじめとした観光地では、英語で他国の観光客との交流を楽しんだり、異なる文化を体験したりと多民族国家、シンガポールを肌で感じた生徒たちでした。企業訪問では、海外で働くことや日本とシンガポールの生活の仕方や習慣の違い、英語学習について深く学ぶことができました。また、現地校訪問・交流では、自国の文化や尚絅での学校生活についてスライドを使いながらわかりやすく英語で紹介し、訪問先の「クレセントガルズ・スクール」の生徒や先生方から大きな拍手をいただきました。現地の文化に関する授業や伝統文化の紹介、校内ツアーなど、たくさんのおもてなしを受けて、どの生徒も英語での交流を満喫したようでした。マリーナバレーでの水や環境についての学び、セントーサ島での班別自主研修、地元の大学生との交流などもあり、大変充実した思い出深い修学旅行となりました。



熊本城マラソンボランティア

令和6年2月18日(日)、高校1~3年生の合わせて92名が、熊本城マラソン2024の給水ボランティアとして参加しました。今年も平成大通り沿いにある「第1給水所」を本校専属で任せていただき、フルマラソン13,000名のランナーにおもてなしの気持ちを込めて、給水を行いました。参加ランナーの中には本校の先生の姿もあり、みんなで盛り上がった場面もありました。晴天の青空のもと、選手の皆様にも喜んでいただき、生徒たちもやりがいを感じながら笑顔とエールをお届けすることができました。



吹奏楽部 第1回定期演奏会開催

令和6年3月3日(日)、市民会館シアーズホーム夢ホールにて「尚絅中学・高等学校吹奏楽部 第1回定期演奏会」を開催しました。第1部『クラシック・ステージ』では令和5年度の各コンクールで演奏した曲を披露しました。第2部『ポップス・ステージ』では「となりのトトロ」「銀河鉄道999」など、世代を問わず楽しめる曲で会場を盛り上げました。第3部『ファンタジー・ステージ』では、ディズニーの華やかな世界観を表現しました。創部6年目にして初めての演奏会でしたが、部員たちの「お客様に楽しんでもらいたい!」という気持ちがよく伝わる演奏会でした。また、舞台裏方として合唱部、司会として高校2年生の浜宏奈さんにも協力してもらいました。尚絅生が丸となって、良い演奏会を作り上げることができました。





尚絅大学附属こども園

修了証書授与式(卒園式)

令和6年3月15日(金)、令和5年度(第55回)修了証書授与式を行いました。園長からほし組、つき組、にじ組の各29名、総勢87名の園児一人ひとりに修了証書を手渡しました。園児達は緊張の中、担任から名前を呼ばれて大きな返事をし、壇上に上がり、園長にお礼の言葉を述べて修了証書を受け取りました。

今回は、新型コロナウイルスの5類感染症移行後の初めての式となり、数年振りに在園児の代表がお祝いの歌を卒園する園児に贈りました。卒園児のみなさんが本園での思い出を胸に、4月からは小学校に元気に登校してくれていることと思います。



入園式

令和6年4月12日(金)、令和6年度入園式を行いました。新入園児83名、昨年度途中入園児13名の計96名の園児とその保護者が出席しました。

園長が、入園する園児と保護者に向けて式辞を述べました。式辞にはアンパンマンやバイキンマン等も登場し、泣いていた園児が笑顔になりました。その後、在園児によるお祝いのことばや歌、教員代表数名によるハンドベル演奏で、新入園児を歓迎しました。最後に、0歳ひよこ組から年長組までの各クラス担任の紹介を行い、式は滞りなく終了しました。

これから、園児達が園での日々の遊びや生活、行事等を経験し、それぞれが成長していく姿を見せてくれることでしょう。



「尚絅学園みらい募金」～奨学資金および教育研究振興の充実のための募金～の報告とお願い

寄附者芳名録

令和5年11月1日～令和6年4月30日現在

ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、ご芳名を掲載させていただきます。

寄附金内訳

個人・法人等	3件 / ￥3,305,000	現旧役員・教職員	1件 / ￥200,000	合計	4件 / ￥3,505,000
--------	-----------------	----------	---------------	----	-----------------

卒業生・現旧役員・教職員・個人・法人等

(順不同)

松永 みち子様	坂田 敦子様	尚絅学園後援会様	光多制服株式会社様
---------	--------	----------	-----------

「尚絅学園古本募金」

「尚絅学園古本募金」は、取引集荷・査定換金・募金送金の運営を「古本基金さしゃぼん」(運営:嵯峨野株式会社)に委託して実施しています。皆様からのご支援をお待ちしております。

尚絅学園古本募金状況について

令和5年11月1日～令和6年4月30日現在

ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、寄附金状況をご報告させていただきます。

寄附金内訳

個人・法人等	3件 / ￥869	現旧役員・教職員	1件 / ￥2,333	合計	4件 / ￥3,202
--------	-----------	----------	-------------	----	-------------

〈WEBで申込む〉 [尚絅学園 古本募金](#) [Q](#) 〈電話で申込む〉 [0120-29-7000](#)

Kishapon.com/shokei-gakuen/ (受付)24時間・365日

オペレーターに団体ID[172]とお伝えください。(受付)9時～18時・365日

【お申込みと集荷について】電話またはWEBからお申し込みいただくだけで、ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います。5冊(5点)以上であれば送料無料で。



学校法人尚絅学園 令和5年度決算の概要

1. 決算の概要

学校法人尚絅学園の令和5年度決算は、令和6年5月24日開催の理事会において承認・議決され、同日開催の評議員会に報告されました。また、監事及び監査法人の承認を得ております。以下、その内容についてご説明いたします。

(1)資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顛末を明らかにしています。

資金収支計算書要約 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:百万円)

資金収入の部	令和5年度	前年度	増 減	資金支出の部	令和5年度	前年度	増 減
学生生徒等納付金収入	1,308	1,380	△ 72	人件費支出	1,592	1,526	66
手数料収入	18	20	△ 2	教育研究経費支出	437	446	△ 9
寄付金収入	9	6	3	管理経費支出	122	240	△ 118
補助金収入	776	787	△ 11	借入金等利息支出	8	6	2
資産運用収入	0	0	0	借入金等返済支出	33	233	△ 200
資産売却収入	0	0	0	施設関係支出	38	891	△ 853
事業収入	2	1	1	設備関係支出	49	160	△ 111
雑収入	101	61	40	資産運用支出	8	5	3
借入金等収入	0	600	△ 600	その他の支出	64	72	△ 8
前受金収入	389	410	△ 21	資金支出調整勘定	△ 51	△ 43	△ 8
その他の収入	69	743	△ 674	支出の部小計	2,300	3,535	△ 1,235
資金収入調整勘定	△ 534	△ 517	△ 17				
前年度繰越支払資金	743	787	△ 44	次年度繰越支払資金	581	743	△ 162
収入の部合計	2,881	4,278	△ 1,397	支出の部合計	2,881	4,278	△ 1,397

資金収支計算書の収入の部において、学生生徒等納付金収入は1,308百万円となり、前年度比72百万円減少しました。また、補助金収入として776百万円を計上し、前年度比11百万円減少しました。

学生生徒等納付金収入及び補助金収入における減少要因は、学生・生徒・園児の在籍数が前年度より20名減少していることによるものです。また、その他の収入の減少要因は、前期末未収入金(退職金交付金)の減少及び特定資産の取崩額の減少によるものです。

支出の部では、人件費支出は1,592百万円であり、前年度比66百万円増加しました。教育研究経費支出は437百万円で前年度比9百万円減少、管理経費支出は122百万円で前年度比118百万円減少しました。

人件費支出における増加要因は、退職者が前年比較で14名増加していることによる退職金支出の増加です。

以上の結果により、次年度繰越金は581百万円となり前年度比162百万円減少いたしました。

(2)事業活動収支計算書 事業活動収支計算書は、当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容、収支状況を明らかにして、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示しています。

事業活動収支計算書要約 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:百万円)

事業活動収入の部	令和5年度	前年度	増 減	事業活動支出の部	令和5年度	前年度	増 減
(教育活動収入計)	(2,213)	(2,250)	(△ 37)	(教育活動支出計)	(2,620)	(2,650)	(△ 30)
学生生徒等納付金	1,308	1,380	△ 72	人件費	1,602	1,532	70
手数料	18	20	△ 2	教育研究経費	855	820	35
寄附金	9	2	7	[内奨学費]	(173)	(177)	(△ 4)
経常費等補助金	775	786	△ 11	[内減価償却額]	(418)	(374)	(44)
付随事業収入	2	1	1	管理経費	163	299	△ 136
雑収入	101	61	40	[内減価償却額]	(28)	(49)	(△ 21)
(教育活動外収入計)	(1)	(0)	(△ 1)	(教育活動外支出計)	(8)	(6)	(2)
受取利息・配当金	1	0	1	借入金等利息	8	6	2
(特別収入計)	(4)	(9)	(△ 5)	(特別支出計)	(0)	(5)	(△ 5)
現物寄付等	4	9	△ 5	資産処分差額	0	5	△ 5
事業活動収入計	2,218	2,260	△ 42	事業活動支出計	2,629	2,662	△ 33
				基本金組入前当年度収支差額	△ 410	△ 402	△ 8
				基本金組入額	△ 38	△ 554	516
				当年度収支差額	△ 448	△ 956	508
				基本金取崩額	0	0	0

事業活動収支計算書の収入の部、支出の部については、資金収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれています。令和5年度の事業活動収支計算書における特徴的なものは、学生生徒等納付金及び経常費等補助金の減少及び雑収入の増加を主要因とした事業活動収入が前年度比42百万円減少したことに対し、人件費の増加及び管理経費の減少を主要因とした事業活動支出が前年比33百万円の減少となりました。

その結果、教育活動収支差額は△407百万円となり、前年度比△7百万円悪化しました。同様に基本金組入前当年度収支差額は△410百万円となり、前年度比△8百万円悪化しました。



令和5年度決算の概要と事業報告

(3) 貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和6年3月31日

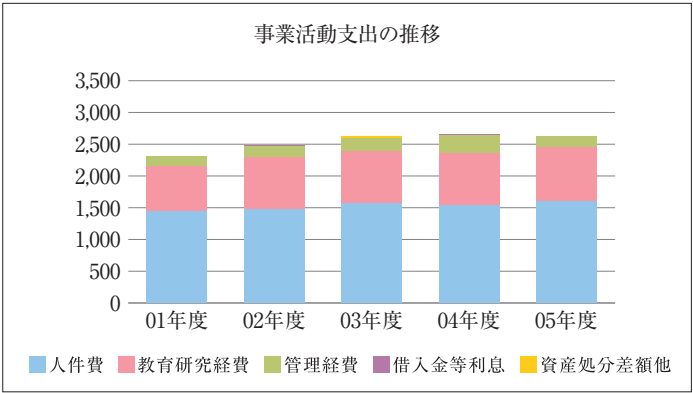
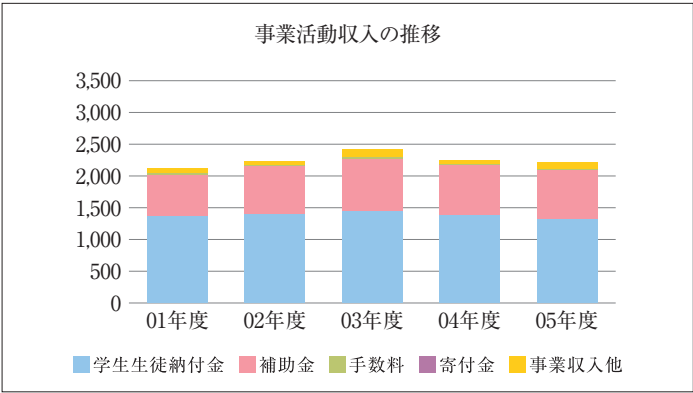
資産の部				(単位:百万円)				負債の部				(単位:百万円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,424	9,790	△ 366	固定負債	1,375	1,430	△ 55	固定負債	1,375	1,430	△ 55	固定負債	1,375	1,430	△ 55
有形固定資産	8,589	8,956	△ 367	長期借入金	1,078	1,133	△ 55	長期借入金	1,078	1,133	△ 55	長期借入金	1,078	1,133	△ 55
土地	1,023	1,023	0	退職給与引当金	297	287	10	退職給与引当金	297	287	10	退職給与引当金	297	287	10
建物	5,857	6,166	△ 309	長期未払金	0	10	△ 10	長期未払金	0	10	△ 10	長期未払金	0	10	△ 10
構築物	365	398	△ 33	流動負債	529	534	△ 5	流動負債	529	534	△ 5	流動負債	529	534	△ 5
教育研究用機器備品	371	291	80	短期借入金	56	33	23	短期借入金	56	33	23	短期借入金	56	33	23
管理用機器備品	42	150	△ 108	未払金	44	50	△ 6	未払金	44	50	△ 6	未払金	44	50	△ 6
図書	929	923	6	前受金	389	410	△ 21	前受金	389	410	△ 21	前受金	389	410	△ 21
車両	2	5	△ 3	預り金	40	40	0	預り金	40	40	0	預り金	40	40	0
建設仮勘定	0	0	0	災害損失引当金	0	0	0	災害損失引当金	0	0	0	災害損失引当金	0	0	0
その他の固定資産	835	834	1	負債の部合計	1,903	1,964	△ 61	負債の部合計	1,903	1,964	△ 61	負債の部合計	1,903	1,964	△ 61
有価証券	20	20	0	純資産の部				純資産の部				純資産の部			
退職給与引当特定資産	300	300	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
減価償却引当特定資産	100	100	0	第1号基本金	15,062	15,058	4	第1号基本金	15,062	15,058	4	第1号基本金	15,062	15,058	4
施設設備引当特定資産	226	226	0	第3号基本金	177	177	0	第3号基本金	177	177	0	第3号基本金	177	177	0
第3号基本金引当特定資産	177	177	0	第4号基本金	181	148	33	第4号基本金	181	148	33	第4号基本金	181	148	33
教育活動寄附金引当特定資産	7	0	7	基本金の部合計	15,420	15,382	38	基本金の部合計	15,420	15,382	38	基本金の部合計	15,420	15,382	38
流動資産	739	843	△ 104	翌年度繰越収支差額	△ 7,161	△ 6,713	△ 448	翌年度繰越収支差額	△ 7,161	△ 6,713	△ 448	翌年度繰越収支差額	△ 7,161	△ 6,713	△ 448
現金預金	581	743	△ 162	繰越収支差額の部合計	△ 7,161	△ 6,713	△ 448	繰越収支差額の部合計	△ 7,161	△ 6,713	△ 448	繰越収支差額の部合計	△ 7,161	△ 6,713	△ 448
未収入金	124	66	58	純資産の部合計	8,259	8,670	△ 411	純資産の部合計	8,259	8,670	△ 411	純資産の部合計	8,259	8,670	△ 411
有価証券	0	0	0	負債及び純資産の部合計				負債及び純資産の部合計				負債及び純資産の部合計			
仮払金他	33	34	△ 1	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部合計	10,163	10,633	△ 470	負債及び純資産の部合計	10,163	10,633	△ 470	負債及び純資産の部合計	10,163	10,633	△ 470	負債及び純資産の部合計	10,163	10,633	△ 470

令和5年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は10,163百万円、建物・教育研究用機器備品の償却等や現金預金の減少により、前年度末と比べて470百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,903百万円となり、前年度末と比べて61百万円減少しました。これは長期借入金の減少が主な要因です。

事業活動収支の推移

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金	1,364	1,389	1,443	1,380	1,308
経常費等補助金	652	758	826	786	775
手数料	24	22	20	20	18
寄付金	8	3	2	2	9
付随事業収入＋雑収入	74	55	3	62	103
事業活動収入計	2,122	2,236	2,413	2,260	2,218
基本金組入額合計	△ 525	△ 532	0	△ 554	△ 38
支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費	1,448	1,473	1,560	1,532	1,602
教育研究経費	698	818	826	820	855
管理経費	168	186	208	299	163
教育活動外支出	0	2	4	6	8
特別支出	0	0	27	5	0
事業活動支出計	2,313	2,478	2,625	2,662	2,629
基本金取崩額	0	0	147	0	0



2. 事業の概要

学校法人 尚綱学園
(1) ガバナンス ①令和7年4月1日施行予定の私立学校法改正に伴う寄附行為の改正に向け情報収集を行うとともに、改正に着手した。 ②常勤理事会を26回、事務部門会議を13回開催し、常勤理事会では法人及び教学の運営上の重要事項の協議検討と意思決定等、事務部門会議では施策・方針の周知徹底を行った。 ③「令和5年度危機管理プログラム」に基づき、こども園は毎月1回、大学・短大・中高は令和5年11月に避難訓練を実施した。また、シャトルバス及びこども園スクールバスに置き去り防止用の安全装置を設置した。
(2) 財政 ①設置校別・部門別に収支状況を策定し、加えて損益分岐学生・生徒・園児数を分析し全教職員に情報共有するとともに、学生・生徒・園児数の確保を指示した。 ②厳格な予算執行及び予算統制のため、裏議において適正な予算執行であるかを検証し、また伝票回覧時に予算執行状況の正確な把握に努めた。 ③武蔵ヶ丘キャンパス遊休地売却に向けてスケジュールを策定し、学内関係者による候補地の検分と測量を行った。
(3) 人事 ①第1次中期人員計画に基づき、令和5年5月1日現在、教員は154名、職員は84名を配置した。 ②「尚綱学園事務職員の初任給、昇格、昇給等に関する規程」を制定した。 ③FD活動は「授業改善アンケート」「FD研修会」など年間5回実施し、SD活動は「決算書の読み方」「一次救命措置」など研修会を年間8回実施した。
(4) 施設設備 ①グループウェア及び勤怠管理システム導入に向け、業者選定・見積徴求を行った。 ②補修・改修の必要性、即時性を判断するため、それぞれの案件ごとに利用状況や耐用年数、改修実績を明らかにし対処した。 ③令和5年8～9月に、九品寺キャンパス大学5号館1階第3調理実習室の改修工事を行った。
(5) 同窓会・後援会・地域との連携 ①大学・短大では令和5年11月にホームカミングデイを実施し連携強化を図った。 ②設置校の担当部署が各サークル、部活、同好会からの課外活動支援金の申請を受け付け、申請のあった団体へ交付した。 ③「くまモン学」を通じた熊本の観光振興と地域活性化を目指したOMO5熊本by星野リゾートとの協定締結やイベントのニュースリリース等を行った。
尚綱大学・尚綱大学短期大学部
(1) 教育と学修の充実 ①アクティブ・ラーニングの実施状況を調査し、シラバスへの未記載や実施可能な科目の対応を行った結果、導入率が70%以上となり、目標を達成した。 ②他大学との単位互換制度導入に向けて学生アンケートを実施し、特別聴講学生制度導入を進めるとともに、東海大学熊本キャンパスと単位互換に向けた交渉を行っている。 ③授業改善アンケートでは、教員が呼びかけを徹底した学部・学科は回答率90%以上となった。来年度は全学的に教員からの呼びかけを徹底し、回答率の向上を図るとともに重複回答を抑制する対策も検討する。
(2) 学生確保 ①令和6年度入試より、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、一般選抜に自己申告書、大学入学生志望理由書を導入した。また、現代文化学部・総合生活科学・食料栄養学科は新たに入試科目を追加し、生活科学部は英語資格のみなし得点制度を導入した。更に、社会人選抜入試の実施内容・時期の見直しや外国にルーツを持つ生徒対象の選抜など多様な背景を持つ入学者の確保に取り組んだ。 ②オープンキャンパスのイベントを見直し、昼食提供の再開や小論文対策講座及びエントリースタート・志望校機対策講座を実施するなど計5日開催し、前年度より約150人多い高校生が参加した。なお、令和6年度入学者については、オープンキャンパスに参加した高校3年生及び社会人の約55%が入学した。 ③LINEやInstagramを活用し、オープンキャンパスや出願開始情報の発信を行った。
(3) 学修環境の整備 ①学生から合理的配慮を求める「講義時における支援申請書」が提出された場合、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程」に則って、授業担当教員だけでなく、学科学会や学生支援委員会等で対応を検討し、各学部・学科において個別に適切な支援を行った。 ②電子図書館の推進として、朝日データベースに加え、熊日データベースを導入し、情報収集の利便性が増加した。 ③九品寺キャンパスでは大学2号館4階講堂へのTVモニター設置及び大学5号館第3調理実習室改修、武蔵ヶ丘キャンパスでは大学2号館1階2101号室のスクリーンの改修等を行った。
(4) 学生支援の充実 ①ボランティア登録を紙媒体からclassroom登録に変更し、classroomで11件のボランティア情報の提供を行った。 ②学生のキャリア支援を目的とした大学コンソーシアム熊本主催の夏季及び春季インターンシップに計29名の学生が参加した。 ③本年度の就職率(令和6年5月1日現在)は 全学で98.7%、3学科が100%を達成した。
(5) 研究力の強化 ①尚綱子育て研究センター主催「乳幼児保育研究会」を年6回開催し、現場の実践報告に対して大学の知的資源を還元した。また、子育て研究センター紀要「児やらい」第20巻を発行した。 ②尚綱食育研究センター主催「尚綱乳幼児食育研究会」を年5回開催し、人気レシピの交換、給食現場の課題の共有と解決策について協議した。 ③本学から発表された研究成果は89件で、目標の50件以上を達成した。
(6) 社会連携の拡充 ①くまモン学に関して、熊本県立大学、キャンパスバレー、流通科学大学及び大学コンソーシアム熊本地域創造部会から招聘を受け講義を行った。また、くまモン学研究会を開催し、研究者のネットワークの拡大を図った。 ②尚綱子育て研究センターでは、保育者の質向上及び保育者の早期離職予防としての相談支援である交流会「保育Café」、地域の子育て支援・相談に関する交流会「子育てCafé」を毎月開催し、大学の教育環境や専門知識を活かした貢献を行った。 ③尚綱食育研究センターでは、尚綱食育推進シンポジウムを1月に開催した。オンライン参加者も含め160名の参加者は、保育関係者をはじめ、給食担当者、栄養教諭等、学生と少しずつ広がり、シンポジウムが定着しつつある。
(7) 国際交流の推進 ①中国語圏の協定校との交換留学生の派遣・受入枠拡大の一歩として、慈濟大学(台湾)と派遣・受入枠を最大3名とする覚書を締結した。 ②オンラインによる留学前の指導や連携に努め、より充実した留学支援体制とした。 ③令和5年度中に協定校に滞在した交換留学生は、令和4年度出発が46名、令和5年度出発が2名、本学に受入の交換留学生は8名であった。
(8) 内部質保証 ①尚綱大学及び尚綱大学短期大学部のアセスメント・ポリシーを改正し、学修成果を大学・短期大学部(機関)レベル、学部・学科(学位プログラム)レベル、授業科目レベル、学生個人レベルの4段階で把握・評価を行うこととした。 ②内部質保証システムを見直し、中長期的な計画及び単年度計画に基づく自己点検・評価については、自己点検・評価委員会に加え、大学企画委員会においても役割を担うこととした。
尚綱中学・高等学校
(1) 教育の質向上 ①全校生徒の英語力向上の目標は全てにおいて達成できなかったが、不合格生徒も含め合格点に近い点数であった。なお、総合進学コース・特別進学コースのGTecについては、レベルが改定され修正した。 ②国際交流プログラムとして、姉妹校の韓国蔚山市の鶴城女子中学校訪問、ニュージーランド語学研修を実施した。 ③高校3年生のフードデザイン選択者が、「ゆめマート熊本」とコラボして商品開発し、県内5店舗で販売した。 ④保護者「本校に入学させて良かった」が令和4年度の75%から91%、生徒「入学して良かった」が、76%から85%と上昇し、学校に対する満足度を得ることができた。
(2) 品性があり社会に貢献し得る生徒の育成 ①プレゼンテーションやディスカッション等の活動を実施し、ディベート甲子園、英語ディベートに参加して入賞した。 ②尚綱大学・尚綱大学短期大学部への進学率は、目標の40%を下回り、34%であった。 ③国公立大学には、総合進学コース7名、一貫コース1名、特別進学コース5名の計13名が合格した。 ④「進路指導を適切に行っている」に対して保護者82%、生徒88%の回答を得て、目標値である80%を超えた。
(3) 生徒支援の充実 ①高校では特待特待生制度を利用し、50名の生徒が入学した。 ②支援が必要な生徒の情報を研修会で共有し、更に共有フォルダで管理することで、日々の指導に活かした。 ③学校行事や委員会活動等の状況、部活動などの大会結果を、広報部と連携しながら随時、配信した。
(4) 地域貢献の推進 ①総合的な探究の時間やLHRを活用したボランティア活動をはじめ、これまでも継続的に実施してきた「届けよう服のチカラプロジェクト」「ウクライナ難民支援募金」「熊本城マラソン」「フードバンク熊本」などに積極的に参加した。 ②地域等から依頼された様々なイベントに、吹奏楽部、合唱部、バントワリング部、ギター・マンドリン部等が出演した。
(5) 個性豊かな生徒の確保 ①広報戦略については、これまでやってきたことに工夫を加え、小・中学校や学習塾を訪問し広報活動を行ったが、目標数であった、高校220名、中学30名の入学には及ばなかった。 ②中途転学者が22名となり、目標値の達成には至らなかった。令和6年度は職員研修の実施を含めて、特別支援教育に関する学びを深める必要がある。
尚綱大学附属こども園
(1) 子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実 ①質の高い教育・保育や安心安全な環境で伸び伸びと遊ぶ園児達の姿に対してどの項目においても90%を超える評価となり達成することができた。 ②ICT支援システム「コドモン」における「出欠遅刻連絡」や「お知らせ」の活用ができるようになり、連絡の効率化が進んだ。リアルタイムでバスの位置も把握でき、バスの運行に関しては順調に進んだ。 ③園児の安全性の確保を第一に考え、幼児棟と保育棟で連携を取りながら、できる限り見通しをもって臨機応変にフォロー体制をつくったが、欠員が出た2学期以降、募集しても応募がなく4月当初の職員数を満たすことができず、職員の負担が増え苦心した。
(2) 子育て支援の充実 ①在園児保護者支援では、「子育て相談会」は年間14回行う予定であったが、実際は16回を実施した。「お誕生会」「おしゃべり広場」「親と子のつどい」などを通して在園児の子育て支援を図ることができた。 ②たくさんのお母さんやお父さんが、保護者が地域子育て支援「どんぐりルーム」に來室した。開催日数は担当が兼務しており、兼務しているきらら(2号保育)での保育対応や午前中保育時のきらら対応のため目標に5%届かなかった。 ③「どんぐりルーム」では、3回の講話(トイレトレーニング・おもちゃ作り)、月1回の身体測定・制作・年3回の知育ヨガの実施を行い参加者の満足度も高かった。
(3) 次世代保育者の養成 ①短大とこども園で話し合いを重ねながら「実習のしおり」は短大で改訂し、実習の充実につなげている。実習生の実習に臨む態度も良好だった。 ②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。 ③実習連絡会などを含め、また公開シンポジウム・短大セミナーへ積極的に参加し、10回実施した。
(4) 自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保 ①令和6年度の入園希望者の状況では前年度の希望者数を下回り、収支の均衡は十分できなかったが、途中入園者が例年より多く、最終的にはほぼ定員に達した。1号保護者に園児募集のアンケートを取り、それをもとに職員で協議し園の運営改善を進めてきた。 ②HP「お知らせ欄」の情報提供回数は、目標の100回を超え、187回提供できた。 ③勤務時間の順守、休職についての取得について、先を見通した動きができるように定期的に声かけてきた。心身の健康や安全面の配慮については管理職が保育者と1～3回面談を行ったりアンケートを行ったりした。



令和6年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は、平成25年に向こう10年間の学園の中長期計画として「長期ビジョン（将来像）と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年、平成29年、令和元年及び令和3年の計4回改定を行いながら、学園の将来像実現に向けて取り組んできました。

今日、人口減少や少子高齢化が進み、他方では人工知能（AI）や身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながるIoT（モノのインターネット）などを活用することで、社会全体をより効率的で持続可能なものにしようとする「超スマート社会（Society 5.0）」の実現に向けた技術革新が加速し、社会は急激に変化しています。このような予測困難な時代の中、尚絅学園は令和5年度から10年間の「第二期中長期計画」を制定し、学園の現状と課題、学園を取り巻く環境の変化や今後の方向性を踏まえた本学園の目指すべき姿（ビジョン）を掲げ、ビジョン達成のために教職員が一丸となって諸課題へ取り組んでいます。

令和6年度事業計画書は、「第二期中長期計画」における諸課題への取り組みに加え、多様化、複雑化するニーズに応える人材の育成や質の高い教育機会の確保に尽力し、着実に施策を実施するための年度計画としています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等が充実した学校生活を過ごすためには、経営力の強化による安定的かつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠です。

- ガバナンス
経営の規律と誠実性を維持しつつ、「建学の精神」「教育理念」に則った教育を実現するための体制整備に努め、管理部門と教学部門の円滑な意思疎通と連携を図るとともに、相互チェックを適切に機能させます。また、人権・安全へ配慮した危機管理体制及びSDGsへの取り組みを強化します。
- 財政
中長期計画に基づく適切な財務運営を確立し、安定した財務基盤のもと収支バランスの均衡に努めます。
- 人事
各設置校の使命・目的に則し、財政状況を踏まえた適正な人員配置と、公正・公平で納得感のある人事評価の確立と適正な処遇の実現に努めます。また、適切な人事管理・労務管理体制を確立し、教職員の資質・能力の向上と職能開発を実施します。
- 施設設備
外部環境の変化に対応した教育・研究環境の整備と適切な運営・管理を実現します。
- 同窓会・後援会・地域との連携
同窓会、後援会および地域との連携強化に努め、各設置校の発展に寄与する活動を支援します。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

本学における喫緊かつ最大の課題は学生確保です。18歳人口の減少や学生ニーズの多様化等により全国的に女子大や短大離れが見られる中、これまで入学定員を充足していた生活科学部や幼児教育学科も含め、令和4年度には全学部・学科で入学定員を下回り、同5年度は大学・短期大学部全体で入学定員充足率が過去最低になりました。本年度もその状況を改善できず、極めて深刻な事態です。同7年度入試では、入学定員充足率の低い現代文化学部や総合生活学科をはじめ、全学部・学科で教育内容の魅力を高めるとともに広報活動を強化します。また、社会人入学者の増加を図るとともに正規留学生の募集と選抜方法等について早急に具体的検討を行うなど、従来の取り組みをさらに発展させ、入学定員充足率の向上を図ります。

昨年度、第二期中長期計画（2023年4月～2033年3月）がスタートしました。第一期中長期計画では、教育内容の改善としてカリキュラム編成の高度化や学生ニーズへの適切な対応、取得可能な免許・資格の見直し、教育方法の改善を行いました。特に、本学の強みである「食」や「子育て」分野に加え、観光文化における地域連携や貢献についても、外部から一定の評価を得ています。第二期中長期計画2年目である本年度は、さらなる教育方法の充実、学修成果の見える化、地域連携活動及び研究活動を推進します。また、国際交流の促進や地域に向けたシンポジウム・研究会、公開講座、中高大連携などの充実を図ります。

本年度は大学と短期大学部が共に日本高等教育評価機構による認証評価を受審します。自己点検評価書に示した改善・向上方策の実施を開始し、内部質保証委員会を中心に、全学部・学科の教育の質及び大学全体の質を保证するためのPDCAサイクルを実践します。

3. 尚絅中学・高等学校

令和5年度は、コロナ禍の感染防止対策の緩和により学校教育活動がほぼ制限なしで実施することができ、生徒の学校生活に対する満足度の向上は図れたものの、教育の質向上までには至っていない。また、課題である志願者数・入学者数の増加についても、学校ホームページの充実や学校案内パンフレットの改善を行ったり、近隣の小学校や県内の中学校及び学習塾の訪問回数を増やしたりしたが、顕著な成果としては現れていない。

第二期中長期計画の2年目にあたる令和6年度は、各コースにおける学びの更なる魅力化と発展を図るため、大学等との連携による教育力の向上に取り組むと共に、生徒の能力を最大限に引き出すための教職員の指導力の向上を行う。また、志願者数・入学者数増加のための広報戦略については、学校訪問する地域や時期・回数などの見直しを行う。なお、令和6年度のアクションプランに対する重点施策及び具体策は以下のとおりである。

- (1)「教育の質向上」については、生徒の能力を最大限引き出すための教員の指導力向上を目指し、専門教科の指導力だけでなく、グローバル時代を生き抜く生徒を育成するために教員自身の視野を広げ、教育力の向上を目指す。
- (2)「品性があり社会に貢献し得る生徒の育成」については、尚絅中学校高等学校独自のシステムを充実させ、生徒が自分自身を見つめ、自分にふさわしい生き方を見出すことができるように、社会と時代の動きに目を向け、一人の人間として、また女性としての将来について自ら考えていくことを軸にした指針を示す。
- (3)「生徒支援の充実」については、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携をさらに深めながら生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整える。
- (4)「地域貢献の推進」については、地域に開かれた学校としてボランティア活動や地域行事へ参加し、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加する生徒の育成を目指す。
- (5)「個性豊かな生徒の獲得」については、女子の総合学園としての魅力発信の充実と広報戦略の見直しを行い、短期大学・大学への内部進学を希望する生徒の募集に力を入れると共に、様々な分野で頑張っている生徒を広く受け入れるために、生徒・保護者・同窓会との連携を深め、情報収集を行う。

4. 尚絅大学附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし「尚絅らしさ」を生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成による社会貢献に努めています。まず、教育・保育です。「全体的な計画（教育課程）」を作成し、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成（教育的意図）を創造し、子どもの健やかな成長をめざす」ことを目標に、「尚絅らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」として、全教職員が質の高い、温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。今後は、協働してクリエイティブな実践を展開していくことが課題です。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA（杉の子会）との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「どんぐりルーム」や「子育て相談会」等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や援助・配慮を要する保護者の増加に伴い、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育施設との連携・協力、保護者の相談事業等とはもとより、保育者数の確保や研修が急務となっていますが、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない状況も見られます。また、園児の命と安全を守るために、子育てに不安や困り感をおもちの保護者、DVや児童虐待事案等に対して、行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援を実施しています。

さらに、本園の使命である教育実習の充実に努めていますが、担任保育者の業務負担が大きく担当が難しい保育者もあり、実習内容の見直しや改善が課題です。令和5年度新設された尚絅大学こども教育学部の、教育実習の在り方の改善・開発の協議も進めています。今後とも、学校法人としての社会貢献度を高め、附属園の使命として次世代保育者の育成に努めます。

喫緊の課題は、収支均衡のための園児の確保です。周辺市町は熊本市のベッドタウンとして人口増加率が高く海外からの進出企業の影響もあり数年は少子化の影響は少ないと見られていましたが、昨年度の募集では3歳1号園児が定員に満たない状況で、収支均衡を実現するための園児の確保ができていない現状です。これまで、1号園児数を確保するために従来に在る園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けたり、満3歳児を12名から18名に増やしたり、その他にも保護者サービスの向上に努めてきました。さらに、昨年度、1号保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、保護者のニーズの把握とそれに基づく対応策を協議しました。今年度からその対応策を実現していきます。将来的には、収支均衡を実現するための定員の見直し等の対応が必要になるかと思われます。

また、保育者の確保も大きな課題です。全国的な保育者不足であり、本園でも処遇の見直し等を図って確保に努める必要があります。DX推進では、昨年度ICT支援システム「コドモン」を導入し、保護者の利便性を高めてきました。今年度は「コドモン」内のドキュメンテーション機能等の活用を進め、職員の業務改善を図っていきます。広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部

令和6年度 尚絅公開講座

38億年の命

開催日 10/5(土)、12(土)、19(土)

対象者 男女・年齢に関係なく受講できます

受講料 2,000円（高校生以下は無料）

開催場所 尚絅大学・尚絅大学短期大学部
九品寺キャンパス大学1号館10階ホール



テーマや申込方法は
ホームページにてお知らせいたします。



【お問合せ】
尚絅大学・尚絅大学短期大学部 庶務会計課
E-mail: shomuk@shokei-gakuen.ac.jp

尚絅中学・尚絅高等学校

令和6年度 中高体育祭

開催日

9/20(金)

開催場所

熊本県民総合運動公園
パークドーム熊本



尚絅大学附属こども園

令和6年度 こども園運動会

開催日

10/12(土)

開催場所

尚絅大学武蔵ヶ丘キャンパス
グラウンド

